

事業の名称

地域連携協定自治体との共創による地域活性化と PBL 授業の実施

〔事業責任者〕

(自治体側)

(代表者氏名) 常陸大宮市市民協働課長 宇留野 功

大洗町まちづくり推進課長 小野瀬一弘

鹿嶋市企画部次長 坂本 衛

(大学側)

(代表者氏名) 人文学部・教授 斎藤 義則

人文学部・教授 西野由希子

人文学部・准教授 小原 規宏

事業テーマ：自治体との連携

連携先

常陸大宮市市民協働課, 大洗町まちづくり推進課,
鹿嶋市企画部

プロジェクト参加者

斎藤 義則 (人文学部・教授 担当: 大洗町・鹿嶋市)

西野由希子 (人文学部・教授 担当: 常陸大宮市)

小原 規宏 (人文学部・准教授 担当: 常陸大宮市)

プロジェクトの実施概要

①プロジェクトの目的

地域連携協定を締結している常陸大宮市, 大洗町, 鹿嶋市を対象にして, 各自治体における地域活性化活動とこれを教育につなげるためのPBL授業などを実施する。常陸大宮市では, 塩田地区での伝統行事の支援などの地域活性化とまちづくり組織・団体のアクションミーティングの開催等とこれらと連動したPBL授業などを実施する。大洗町では, 後期総合計画のアンケート集計・分析, ライフスタイル研究会の実施などを実施する。鹿嶋市では, 地域総合研究所鹿嶋研究センター客員研究員が鹿島市役所と協働して実施しているまちづくり実践活動の支援とPBL授業などを実施する。

②連携の方法及び具体的な活動計画

自治体は情報と場所の提供, プロジェクトによ

り調査費用の一部を提供する。調査活動については大学と自治体が協働して実施する。PBL授業については, 自治体からの講師派遣, 場所の提供, 見学への協力など全面的に協力して頂く。

大学側は, 教員と学生が協力して, 地域活性化活動を実施するPBL授業については, 教員が授業計画を策定し, 自治体と地域総合研究所の全面的な協力により, 地域再発見とワークショップによる提案型の授業を実施する。

③期待される成果

- ・対象自治体のまちづくり・地域づくり支援
- ・対象自治体における(大洗町除く)PBL授業の開講による教育効果
- ・学生によるボランティア活動による地域住民との交流促進と学生のコミュニケーション能力の向上
- ・まちづくり政策(総合計画策定)立案支援
- ・対象自治体との地域課題改善のための共創体制構築
- ・その他

プロジェクトの実施成果

常陸大宮市

①活動実績

常陸大宮市と茨城大学人文学部との連携事業

は、2005年4月の地域連携協定締結後、9年間にわたり、教員・学生によってさまざまに展開、継続されている。

2013年度も、常陸大宮市の各地域でのプロジェクト、「市民大学講座」ほか各種・各分野の事業を展開したが、本予算については、主に、学生と教員が、常陸大宮市「塩田」地区で行った「塩田地域活性化プロジェクト」、特に、2013年度に行われた「西塩子の回り舞台」の組み立て・公演のサポートの部分に振り向けた。

「西塩子の回り舞台」公演への茨城大学の協力は、前々回の2006年の公演、2008年の公演に続き、今回で3回目になるが、2013年度の公演実施に向けては、2012年度から関係の学生たちと、本公演の主体である地元の「西塩子の回り舞台保存会」とで協議を行い、学生は以下のようなさまざまな方面で、サポートを行った。

- ①本公演に向けて、2013年4月から、本学の学生グループ、文化デザイナー学院（水戸市）の学生が協力して、公演のPRや常陸大宮市のPRを行う。
- ②組み立て（竹を切り出す、舞台を組み立てることのサポート）。
- ③市民のボランティアや、一般の見学者向けに、現地でのガイド役をつとめる（バックヤードツアー、PRグッズの開発と販売）
- ④本公演に先立つ「舞台開き」を任されて、10月5日、学生ならではの企画を行い、実施。
- ⑤本公演（10月19日）の際のスタッフ（受付、舞台スタッフ）を担当。
- ⑥本公演の日に、学生が複数の「ブース」を出して、常陸大宮市の魅力をPR（花カフェ、西の内和紙ワークショップ）。
- ⑦本公演会場周辺に、花（コスモス）を栽培し、会場周辺の整備等に協力。

また、教員2名は、これらの学生の活動をサポートし、ともに活動して、学生たちにアドバイスを与えると同時に、西野教員は、市民のボランティアのとりまとめ、保存会と市（行政）との連絡調整、新聞やNHK、IBSなど各種メディアと

のパイプ役をつとめるなど、公演の実施、成功に向けて、協力した。

②プロジェクトの達成状況

本活動は、学生が常陸大宮市の当地域で継続してきた「塩田地域活性化プロジェクト」の4年目の活動である。本プロジェクトは、学生による自主的な研究活動（地域連携プロジェクト活動）を中心に展開してきたが、教養科目「地域課題入門」の授業日程の一部としての実施、学生ボランティアによる常陸大宮市教育委員会主催「小学生のお宝発見事業」の一部としての実施、など、大学内の複数の教育的要素を複合させて、取り組んだ。

新聞等のメディアに取り上げられる機会も多く、また、それぞれの事業についてはそれぞれに、成果発表会、報告書の刊行等を行い、事業の内容を報告するとともに、社会・地域への還元を行っている。

「西塩子」地区は、常陸大宮市の定めた「集落支援対象地区」であり、人口減少、高齢化の進む「超」過疎の集落である。ここでの学生たちの活動は、この地区に残されていた貴重な伝統文化の活用と継承、地域の人材の発掘、地域と相談・連携しながら、大学生や市民がどのように地域の支援ができるか、という課題に取り組んだものである。

2013年度の「西塩子の回り舞台」の公演は大成功であったが、それを本学学生・教員がバックアップできたことは、単年度の協力でなく、それまでの9年間の蓄積があり、地元との信頼関係があって可能になったことである。

また、本活動の成果は、今回の公演の当日の成功ということにとどまらず、過疎等によってさまざまな難しい問題を抱えた地域が、どのように地域としての活力、まとまりを保っていくか、また、それが一時的、一過性のものに終わらず、長期にわたって継続していく、そのための仕組み作りという点で、他地域の参考事例になるような活動が達成、実現されたと考えている。

③今後の計画と課題

茨城大学人文学部の教員、学生による、常陸大宮市の各地域でのプロジェクト、「市民大学講座」ほか各種・各分野の事業を、2014年度も継続していくが、特に、「塩田地域活性化プロジェクト」の今後については、以下の点を中心に協議中である。

- ① 2013年度に構築した〈地元「西塩子回り舞台保存会」+市民のネットワーク（常陸大宮市まちづくりネットワーク、市民のボランティア）+茨城大学の学生+市（行政）〉の協力、協働の関係を、継続して展開する。
- ② 舞台の組み立て・公演を予定してない2014年度においても、本地域の活性化のために、上述の多くの方たちが定期的に交流を行い、協力体制を維持・強化していけるような機会・しかけを設けていく。連絡体制を強化し、HP等を活用した情報発信を継続する。
- ③ 「市民のネットワーク」は、相互の協力という面が重要なので、「西塩子の回り舞台保存会」が、今度は、他地域・他の団体の活動を支援・協力するということが重要になる。

本学の教員・学生は、「塩田地域」での活動を継続するとともに、ここでの経験をもとに、常陸大宮市各地域、あるいは、地域連携協定先等の他の各市町村等で、活動を支援していく。

また、学生の活動については、授業（PBL授業。特に、人文学部「地域課題の総合的探求プログラム」としての取り組み、学生の研究活動としての取り組み、学生ボランティアとしての取り組みなどをあらためて整理し、それぞれの学生に合う形式・内容で実施していくとともに、これらが常陸大宮市で、複合的に実施されていることのメリットを活かしていきたいと考えている。

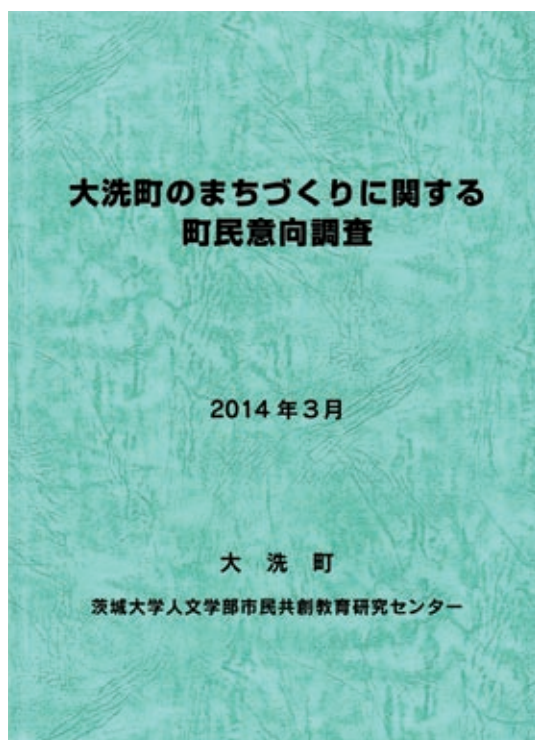
大洗町

①活動実績

- ・『大洗町のまちづくりに関する町民意向調査』の発行
- ・「ライフスタイル」調査の実施

②プロジェクトの達成状況

- ・第5次大洗町後期総合計画策定のための町民意向調査（3000人対象、回答者1090人）を実施し、回収、集計、分析を行い、『大洗町のまち



目次	
1 調査目的・方法	1
2 調査結果の概要	2
3 集計結果	6
3-1 回答者の属性	8
(1) 属性	8
(2) 5年前と比べた大洗町の暮らしやすさ	12
3-2 町民サービスの評価	13
3-3 「復興まちづくり計画」における目標・方針の「今後の重要性」	14
(1) 安全・安心のための土地利用の方針	14
(2) 安全・安心が第一の施設整備の方針	16
(3) 賑わいのある魅力的なまちづくりの方針	20
(4) 今後5年間で特に重視して取り組むこと	24
3-4 第5次総合基本計画での取り組みについての「現状の満足度」と「今後の重要性」	26
3-4-1 「現状の満足度」と「今後の重要性」	26
(1) 安心して健やかに暮らせるまち（福祉・健康）	27
(2) 人と文化を育む生きがいのまち（生涯教育）	33
(3) 自然環境と共生し安全で住みよいまち（生活環境）	39
(4) 快適な生活空間のまち（都市整備）	47
(5) 活力と賑わいのあふれるまち（産業・観光）	59
(6) ともに力を合わせてつくるまち（自治）	67
3-4-2 今後5年間で特に重視する取り組み	79
3-5 まちへの定住意向	81
(1) 住みやすさ評価	81
(2) 定住意向	83
(3) 住み続けたい理由	85
(4) 転居したい理由	87
(5) 定住人口を増やすための施策	89
3-6 海との関わり	91
(1) 暮らしのなかでの海との関わり	91
(2) 海と関わった暮らしの魅力評価	94
(3) 海の魅力を向上させるために必要なこと	96
3-7 自由記述	98
3-7-1 新しい総合計画に位置づけたり、取り組んでみたいこと	98
3-7-2 将来に向けて、町に望むことや町づくりに関する意見	103
4 町民意向調査を「後期総合計画」に反映するために	123

づくりに関する町民意向調査』報告書としてまとめた。

- ・大洗町の魅力を発信するためのライフスタイル調査を実施し、町民からのヒアリングと町報で取り上げられた転入者の資料分析等を行ったが、パンフレット発行には至らなかった。

③今後の計画と課題

- ・町民アンケート調査を活用した政策提案
- ・ライフスタイル調査の継続と分析、パンフレット等としてのまとめ

鹿嶋市

①活動実績

- ・「住みたいまち鹿嶋をめざして」というテーマでPBL授業を実施した。
- ・地域総合研究所鹿嶋研究センター（10月1日以降は、人文学部市民共創教育研究センター鹿嶋研究所）客員研究員による鹿嶋市のまちづくり研究と実践活動を支援した。

②プロジェクトの達成状況

- ・PBL授業には市民の参加も含めて60人弱が出席し、好評を博した。
- ・客員研究員のまちづくり研究と実践活動が11月2日に開催した市民共創教育研究センター設置祈念シンポジウムにて鹿嶋市長より高く評価された。

③今後の計画と課題

- ・PBL授業の継続
- ・鹿嶋研究所客員研究員のまちづくり研究と実践



活動の支援

- ・鹿嶋市役所とのまちづくり共創活動の推進

PBL 授業の開講

“住みたいと思うまち、鹿嶋をめざして”

パラダイムシフトの提言

概要

鹿嶋市が誇る3つの顔である鹿嶋神宮、鹿嶋アントラズ、鹿嶋製鉄所に次ぐ4つ目の顔として、鹿嶋市の文化遺産と自然を巡るウォーキングコースを整備し、市民の郷土理解の一助にするだけでなく、県内外のウォーキング愛好者を対象とした観光資源に育てる。

地方都市、鹿嶋市、まちづくり、神代の国、日本の原風景、里山、自然保護、文化財保護

現地見学から課題の整理、改善案の提案まで体験することで、問題解決手法について体験的に理解する。そして学生諸君の新たな発想、着眼点にもとづいた鹿嶋市のパラダイムシフトを提言する。

授業計画

● 1日目（9月20日）

①オリエンテーション（ガイダンスとグループ分け）（午前）

- ・集中講義の概要／鹿嶋市の概要
- ・基調講演（内田俊郎市長）／一般講演（まちづくり推進課、鹿嶋オルレ推進協議会代表）
- ・問題解決手法の説明（斉藤義則教授）

②現地見学（歩いて見る鹿嶋市：約3時間）（午後）



● 2 日目

①ワークショップⅠ（現状把握／課題設定／要因分析／改善案）（午前）

②ワークショップⅡ（まとめ）（午後）

● 3 日目

①プレゼンテーション準備（午前）

②プレゼンテーション（午後）

③講評（午後）

④レポート提出（午後）

鹿嶋研究所客員研究員によるまちづくり

研究と実践活動の支援

城山研究員

・地域を考える会 25 回実施した。

蒲池研究員

・平成 26 年度茨城大学公集中講義開催準備

村田研究員

・NPO 遊休地活用クラブの運営

田鍋研究員

・鹿嶋の省エネ意識調査（アンケート）

村上研究員

・無電化工房下見見学と省エネ情報収集

・省エネサポート体制に向けた準備

荒井研究員

・親水公園再生協議会を設置

西岡研究員

・鹿島神の道ウォーキングの継続開催と経路整備
韓国済州島ツアー

・3/16 - 17 13 名参加

・本プロジェクトは、市との協働事業であるが3
年間は 100 万円の支援がある。

中川研究員

・カルチャーネットへの参加

・ミツバチプロジェクト活動

・鹿島アントラーズとの連携

その他